

# Book Review

## かとうひさこのブラッシングガイド

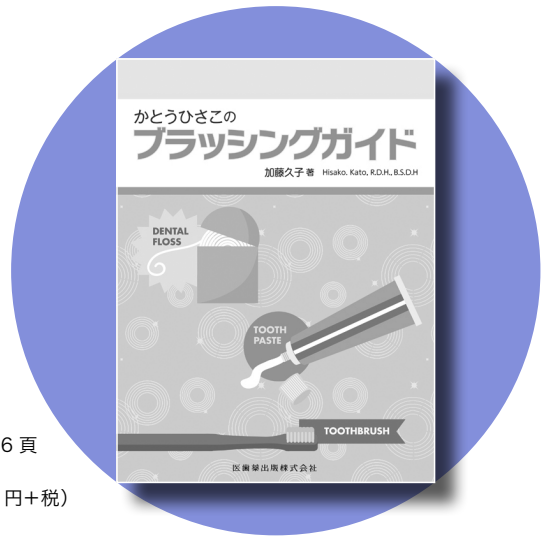
加藤久子 著



Reviewer

弘岡秀明 Hideaki Hirooka  
(東京都・スウェーデンデンタルセンター)

A4 判変, 116 頁  
オールカラー  
定価 (3,800 円+税)  
医歯薬出版刊



歯周病とは歯牙に付着した細菌性プラーク（バイオフィルム）によって引き起こされるある種の感染症で、炎症を伴う。その治療目的は、歯肉縁下縁上の細菌叢を取り除いて歯周組織の健康を回復することでその健康を維持することにある。

徹底的な縁上プラークコントロールを伴った非外科処置、正確な外科処置、ときには抗生剤の付加的な応用に加え、その後の適切なメンテナンス（サポータティブセラピー）により、「歯周病の改善と安定を図る」ことは1980年代後半までその目標を達成されたといえる。さらに、1990年代に入ると歯周治療の目的が感染の除去から、失われた歯周組織再生、さらに失われた歯牙の代用としてのインプラント応用へというパラダイムシフトが起った。

また、近年ではインプラントを用いた症例が増えるにつれて、インプラント周囲病変への関心が高まってきた。現在のところ、この疾患に対する治療方法が確立していないため、この疾患にならないように予防することが重要になる。そして、その予防プログラムは、インプラント治療が計画された時点から開始されるべきである。

このように、歯周病、さらには歯科

治療全体の成功への鍵は歯肉縁上のプラークコントロールにあることは論を俟たない。ところが、そのコントロールに最も欠かせないブラッシングについては、意外とわかっているようでわかっていない。ブラッシングの大切さはわかっても、実際の患者を目の前にしたときにどのようなブラッシング指導を行うべきか、あるいは医院のスタッフに対してどうブラッシングを教育したらいいのか、戸惑うことがある。

そうしたなか、日本と米国で歯科衛生士の正式な教育を受けた数少ない日本人歯科衛生士であり、これまで多くの歯科学会や講演会で発表し、さらにはその著書で知られる加藤久子氏が『かとうひさこのブラッシングガイド』と題した本を上梓された。ブラッシングに関する問題は本書によりほとんど対応できるようになるだろう。

まず、本書では写真が多用され、各種ブラッシングの細かい術式がわかりやすく解説されている。たとえばフロス一つをとってもその種類の紹介にはじまり、個々の使い方がわかりやすく解説されている。口腔内の臨床写真のほかにも模式図で解説されている部分もあり、紹介されているテクニックをすぐに臨床へ導入できる。また、チェアサイドでこうした写真や図版を示す

ことで、患者への教育用としても応用できるだろう。

本書を最初のページから最後まで通読するのも一つの手だが、興味があったり、すぐに必要となるであろう内容を含めた章を昼休みなどのちょっと空いた時間に読むのもいい。また、天然歯のみならず義歯やインプラント、矯正装置、さらには現在ニーズが高まっている往診の場におけるブラッシングにも言及されていて、幅広い臨床場面に対応できる。材料・器具についての豊富な情報がそろっているのでブラッシングについての辞書代わりに使用することも可能だろうし、メーカー名・製品名も記載されているので、すぐに臨床での活用が可能である。

本書の内容は院内の勉強会の教科書として使うことができるだろう。新人歯科衛生士にとってはブラッシングについてのバイブルになるだろうし、ベテラン歯科衛生士にとっては基本を学び直す、あるいはそのスキルをより上げるためにも用いられよう。歯科医師が読んでもきっと新たな発見があると思う。

本書を医院の全スタッフが読み、その内容を使いこなすことで、医院全体の臨床の質が向上することになるはずだ。